

乗雲

寺報
第130号
R7/8/1 発行

1985/4 創刊

〒959-2646 新潟県
胎内市西栄町 2-8
TEL 0254-43-2419
FAX 0254-43-4560
編集人 広厳寺
住職 神田英俊

メール
otera@kogonji.jp

小水の魚の如し、斯に何の楽しみか有らん
法句經

大本山永平寺での修行中、三三念誦という法要がある。月の三と八のつく日の午後にお勤めします。毎日堂内外の掃除はかせませんが、その日には修行僧総出で特に念入りに清掃することになっている。その日の夕方にこの法要を行います。

「大衆に白す。如来大師入般涅槃、今・・年に至って、已に二千五百・歳を得たり。是の日已に過ぎぬれば、命も亦た随って滅ず。小水の魚の如し。斯（ここ）に何の楽しみか有らん。衆等、当に勤め精進して頭燃（ずねん）を救うが如くすべし。但だ無常を念じて慎んで放逸すること勿れ。伽藍土地、法を護つて人を安んじ、十方の檀那、福を増し慧を増さん。如上の縁の為に念ず」大衆の一人がこの一文を唱え終

わると、すぐ様、堂内の鐘が鳴り、その鐘に合わせ、全員で十仏名（十の仏のみ名）をお唱えする。いつもこの場に立つと、独唱の声、十仏名が心に染み入り、しつかり修行に励まなければという思いになったものでした。

「釈迦入滅より・・年が経った。この日が已に過ぎ去るように私たちの命もまた減っていく。『小水の魚の如し』（ほんのわずかな水に住む魚、水が干上がればたちまち死んでしまうが、そこに安心してとどまっている）『斯に何の楽しみか有らん』（そこに何の楽しみがあるというのだ）。生命は危うい、まさに時を惜しんで修行に専念し、頭にかかる火の粉を払うが如くして、ただ無常を念じ精一杯修行に励もう」このように解釈している。

過日、駒沢大学で共に仏教を学んだ山梨の臨済宗妙心寺派のご老師

にお会いした。妙心寺派では令和九年に第二世の興祖微妙大師の六百年の大法会が厳修される。大法会のテーマは、『いま、ここを生きるしあわせ』微妙大師には、「小水の魚に楽しみ有り」という書が残されている。三三念誦の「小水の魚の如く・・何の楽しみか有らん」、この無常の世には楽しみはないというのが一般的であるが、微妙大師は「楽しみがある」と示している。「小水の魚にも楽しみあり」と。思い通りにならない人生だとしても、いま、ここを精一杯生きること、誰の人生にも真実の楽しみが立ち現れてくる』（妙心寺ホームページ）なるほどと思う。

この世の無常は誰も避けることはできないもの。小水の魚の如く、大切な寿命（水）も減り、日々私たち（魚）も衰えて行く。微妙大師や永平寺の三三念誦はともに、「お釈迦様がご入滅されてから二千五百年が過ぎた、同じように自分の命も刻々と減っている。無常の世だからこそ、日々怠ることなく、人生の終わまでひたすら修行に励もう」そのように教えてくれている。

令和七年 年回忌表

[回忌]		[没年]	
一周忌		令和六年	
三回忌		令和五年	
七回忌		令和元年	
		平成三十一年	
十三回忌		平成二十五年	
十七回忌		平成二十一年	
二十三回忌		平成十五年	
二十七回忌		平成十一年	
三十三回忌		平成五年	
五十回忌		昭和五十一年	
百回忌		大正十五年	

▼令和七年度(2025)の年回忌表です。

当寺では個人情報保護の観点から本堂には張り出していません。年忌に当たられている各家には昨年十一月中旬に通知していますのでご確認ください。▼日曜・祝日のご法事の申し込みはお早めにお問い合わせいたします。▼「周」は「めぐる」ことを意味する言葉で、亡くなってからちょうど一めぐりした翌年のその日を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くなられた日を最初の忌日と考え、三回目の忌日が「三回忌」となる。以降は丸六年目が七回忌、丸十二年目が十三回忌となる。

大般若法要終了

六月十日午前十時より恒規大般若会を厳修いたしました。随喜寺院二十三名。大般若転読法要、檀信徒供養法要、法話後、昼食お持ち帰りにて終了いたしました。参詣者は四十名。尚、今年度の法話は、村上市荒島・東岸寺住職野田尚道老師にお務めいただきました。



野田尚道老師によるご法話

白蓮寺二十世本葬儀

新発田市五十公野・白蓮寺様（住職関根大剛師）では先住二十世大圓信行大和尚（関根信行師）の本葬儀が三回忌に併せ、御寺院、檀信徒、梅花講員他多数参列にて厳かに修行された。六月十九日逮夜、二十日本葬儀及び三回忌正当供養。

■訃報 並槻上野 全氏逝去

五月十九日寂、享年八十四。長年当寺役員として尽力されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

■訃報 源長寺九世遷化

令和七年五月二十一日、岐阜県中津川市、源長寺九世住職・大安泰方大和尚（久翁泰方師）遷化。世寿七十三歳。五月二十六日逮夜、二十七日に本葬が営まれた。師は駒沢大学仏教学部同年で、その後大本山永平寺も一緒に修行した仲間。秉炬師はご本寺同恵那市長國寺住職小島現由老師が務められた。遺弟喪主は副住職横田英和師。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

■訃報 諸善寺二十世遷化

令和七年五月二十八日、胎内市鍛江、諸善寺二十世住職・諸岳正樹和尚（小林正樹師）遷化。世寿八十四歳。六月二十三日逮夜、二十四日に本葬が営まれた。秉炬師はご本寺新発田市蔵光・香傳寺住職三輪智明老師が務められた。遺弟喪主は副住職小林正禪師。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

◆寺院葬◆

乗雲閣（位牌堂）ホールで
通夜・葬儀ができます。



乗雲閣 1 F ホール

▼コロナ感染症以後、葬儀の形態が変わりました。家族や近親者のみの小規模葬が一般的となり、葬儀社会館での葬儀も少人数で執行されています。当寺位牌堂ホールでの通夜、葬儀は控え室もあり、万一の場合には控え室に搬送しお寺から出棺も可能です。ご利用ください。

和尚さんの言の葉

曹洞宗新潟県第四宗務所（所長新潟市観音寺住職阿部正機師）では宗務所管内寺院によるテレホン法話を聞くことができます。和尚さんのお話をお聞きください。

新潟県曹洞宗第四宗務所
テレホン（WEB）法話

おしょう
和尚さんの言の葉



北信越管区内宗務所（長野第二、新潟第一）
管区教化センターにもテレホン法話があります。

- ◆曹洞宗新潟県第二宗務所 テレホン法話
「なむなむやまびこ法話」0265-73-7676
- ◆曹洞宗新潟県第一宗務所 テレホン法話
「禅の散歩道」0258-34-4455
- ◆曹洞宗北信越管区教化センター テレホン法話
「心の電話」026-244-4141

火の用心

〓 福山諦法禅師のお言葉〓

常勝寺内 栗橋一徳

令和七年に入り、早くも二ヶ月が経ちました。毎年、大寒から立春、この時期が各地で最も寒さが厳しくなると言われています。思い起こせば、昨年の夏、「暑い、暑い」と口癖のように言いながら過ごしていました。しかしながら、今は「寒い、寒い」と、どこかあの夏を恋しがっている自分があり、「あゝ。人間ってなんて贅沢なのだろう。」と感じる日々を過ごしております。寒さが増して来ますと火を扱うことがより多くなります。

私が福井県にあります大本山永平寺で修行させて頂いていた頃の話です。時の御住職、福山諦法親下は永平寺の修行僧に事あることこのようにお話をされておりました。『火の用心』、『火の用心』と。当時、まだまだ修行僧の身であった私はその意味の如く「火元に注意をする事」、「火災を起こさないように気を付ける事」、それだけをおっしゃっているのだと思ってお

りました。しかし、後になって、この『火の用心』には、もう一つ深い意味があるとお聞きしました。それは自分の心の『火の用心』です。すぐにイライラしないのはもちろんの事、何かを行動に移す時、言葉を発する時には、よくよく考えて相手を傷つけないようにする。これが心の『火の用心』です。ほんの一言ではありませんが、ほんの四文字の言葉であり、私はいまでも禅師様のお言葉を大切にしながら日常生活を歩んでいます。

日々の忙しさの中、実践する事が難しい時もあるとは思いますが、皆様も『火の用心』、そして自分の心の『火の用心』を心掛け、一日一日を心穏やかに過ごしてみたいかがでしょうか。

＊この法話は令和六年二月一日より十日まで、曹洞宗新潟県第四宗務所テレホン(WEB)法話(和尚さんの言の葉)での新発田市中、常勝寺副住職・栗橋一徳師のお話を許可を得て掲載いたしました。

境内風景



フジが綺麗でした (5月中旬)

仏事の知識

中陰飾り

お葬式後、自宅には四十九日法要までご遺骨や白木のお位牌を安置する祭壇を設けます。これを中陰飾りと言います。葬儀社では白木の祭壇や白い素焼きのような香炉、線香立て、花立て、白木の焼香箱等を用意してあります。これはあまりにも突然の旅立ちとなり何も葬儀の準備が整っていないことを現しているものです。お香典に新札を使わないとか、表書きを薄墨で書くのも、急なことで準備が出来ていないことを知らせてくれているもので、ご不幸に際しての作法と言われています。これらの仏具類はみな四十九日法要後、業者に引き取ってもらいます。普段用には使用しません。白木のお位牌も四十九日までの仮のものその後、菩提寺様に頼んで塗りの本位牌を用意します。

＊今までの仏事の知識は当寺ホームページでご覧いただけます。

仏事の知識



□涅槃聖苑開眼法要厳修

昨年春より建設を進めておりました永代供養合祀墓「涅槃聖苑」が完成し、六月五日午前十一時より開眼供養法要を厳修いたしました。法要には千眼寺（二男）、雲泉寺（三男）をお願いし、住職、副住職を含め寺院四名及び工事関係者参列にて執り行いました。



▼寺報乗雲に挟んであります「涅槃聖苑のご案内」をご覧ください。
なお、詳細はお寺に資料がありますのでお問い合わせ願います。

□教区護持会春季集会

六月十三日塩谷増慶院様を会場に十七教区護持会の春季集会が開催された。令和六年度行事及び決算報告、令和七年度行事及び予算が承認され、その後、特派布教師・群馬県法泉寺住職喜美候部正吾老師の法話を拝聴した。

秋の仏教講演会



京都 日蓮宗 蓮久寺
住職 三木大雲 師

講師 三木大雲 師

怪談をベースにして法華経を絡めた説法を行う。

期 日 十月十一日（土）

時 間 午後一時三十分より

会 場 広厳寺

参加費 五百円

主 催 胎内市曹洞宗寺院

*チケットは最寄りの寺院へ。



□お寺からのお願い

▼位牌堂の各家位牌壇のローソク、お線香について お寺で用意したミニローソク、お線香をご使用ください。お線香は香炉から灰がこぼれないように真つ直ぐに立て、お参りが済みましたら点したローソクは火災予防の為必ず火を消してください。

▼墓地の自然ゴミ（枯れ枝、枯れ草、枯れたお供えのお花等）は、お寺で業者に依頼して処分しますが、それ以外のお花を包んであった紙、ビニール類、お墓掃除のたわし、雑巾、洗剤容器、欠けた茶碗等は捨てないでください。各自持ち帰って処理してください。

▼古い塔婆は、参道中程に「古塔婆入れ」がありますのでご利用ください。

▼お盆を迎え、墓地の枯れ草等乾燥していますので、ローソク、お線香を点す際は火の取り扱いに十分注意してください。

*墓地美化にご協力お願いします。

□寂光塔（永代供養墓地）

一人暮らしの方、お墓継承にお悩みの方、お寺が永代にわたり供養いたします。広厳寺ホームページにも詳細が掲載されています。



寂光塔（永代供養合同墓所）

□動物供養塔（ペット墓地）

動物のお骨を埋葬いたします。檀家さん以外にも納骨供養できます。



動物供養塔（ペットのお墓）

